

はじめに

普通のガーナを伝える本を書きたい。本書は、そんな素朴な欲求から生まれた。

旅行記でもなく駐在員滞在記でもなく、かといってむずかしい学術書でもないガーナの本。われわれと同時代に生きるガーナの人たちのこと、豊かな文化と歴史をもったガーナの姿を伝える本。仕事でガーナに行くことになったとき、ガーナ人の友人や恋人ができたとき、なぜチヨコレートが「ガーナ」なのか疑問に思ったときに、気軽に手に取ることができる本。そんな本があったらいいなと思って、私はこの本を書き始めた。

テレビでは流ちょうな日本語を話すアフリカ人が、番組のレギュラーメンバーをつとめている。若者たちにとってのアフリカン・ミュージックは、もはやエキゾチックで特別な

音楽ではなくなつた。全国各地の大学ではアフリカから来た多くの留学生が学んでいて、街角でもよく見かける。でも私たちは、彼らの国のことをあまり知らない。アフリカのことをもう少し知りたいと思つたとき、この本を手にとつてもらい、そこに暮らす人たちの生活と歴史について具体的なイメージを持つていただけたらと思う。

本書は二部構成になつていて、第Ⅰ部ではガーナの歴史を、第Ⅱ部では現代ガーナのくらしの一端を紹介した。もちろん後半の第Ⅱ部から読み始めてもらつてもいいし、好きなところだけ「つまみ読み」してもらつてもいい。また特定のことを知りたい人のために、巻末に索引も用意した。

本書を読んでくれた方が、「ガーナって面白い」と少しでも感じてもらえれば、とても嬉しい。

二〇〇三年七月

高根 務